

# 第 27 回若手シンポジウム (第 10 回農芸化学の未来開拓セミナー)

場所: 岡山大学津島キャンパス自然科学研究科棟(N24) 2階大会議室

([http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/soumu-access\\_tsushima\\_all.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/soumu-access_tsushima_all.html))

日時: 2018年5月18日(金)14:30~19日(土)12:00

## プログラム(敬称略)

### 5月18日(金)

- 14:30~14:35 開会の辞
- 14:35~15:15 モデル生物(酵母・線虫)から学ぶ健康長寿  
水沼 正樹 (広島大学)
- 15:15~15:55 腸内フローラ代謝産物に着目した食品素材の開発  
西谷 洋輔 (丸善製薬)
- 15:55~16:05 休憩
- 16:05~16:45 光合成の光エネルギー変換制御機構~基礎研究から応用研究への挑戦~  
伊福 健太郎 (京都大学)
- 16:45~17:25 ビタミン B6 依存型ヒスチジン脱炭酸酵素の触媒機構  
新田 陽子 (岡山県立大学)
- 17:25~17:30 連絡等
- 18:30~ 意見交換会

### 5月19日(土)

- 9:00~9:05 連絡等
- 9:05~9:45 化学合成独立栄養細菌の硫黄代謝の多様性  
上村 一雄 (岡山大学)
- 9:45~10:25 リン脂質の機能解析を目指した分子設計と化学合成の実際  
安部 真人 (愛媛大学)
- 10:25~10:35 休憩
- 10:35~11:15 腸内細菌代謝産物から考える肉の多量摂取による健康増進と病態発症の分岐点  
清水 英寿 (島根大学)
- 11:15~11:55 凸凹法で植物ホルモンの作用を自在に操る  
高橋 宏二 (名古屋大学)
- 11:55~12:00 閉会の辞

講演会への参加(申し込み不要)は無料ですが、意見交換会への参加(申し込み必要)は、有料(一般4000円、ポスドク・学生2000円)です。意見交換会への参加は人数に制限がありますので、お早めにお申込下さい。

### 申し込み・問い合わせ先

岡山大学大学院環境生命科学研究科 〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1

宗正 晋太郎(smunemasa@okayama-u.ac.jp)・中村 俊之(t-nakamura@okayama-u.ac.jp)・

根本 理子(mnemoto@okayama-u.ac.jp)・泉 実(mizumi@okayama-u.ac.jp)

# 農芸化学の未来開拓セミナーは、今年で10回目を迎えます。 講演者の皆様、ご協力ありがとうございました！

(注)講演者の所属は、講演会当時のものです。

## 第1回(2008年5月23日~24日) @岡山大学津島キャンパス

木村 吉伸(岡山大学)	糖鎖の化学生物学
西野 直樹(岡山大学)	飼料の腐敗を防ぐ乳酸菌: 学生のひと言ではじまったエコフィード研究の成長記録
小田 賢司(岡山県生物科学総合研究所)	FOX Hunting系を用いたイネの遺伝子機能解析: 新規フラボノイド調節因子の同定
深瀬 浩一(大阪大学)	有機合成で自然免疫の仕組みを探る: 細菌由来複合糖質の合成と機能研究
有馬 二郎(鳥取大学)	酵素触媒としてのアミノペプチダーゼ: 有効利用に向けた酵素工学・タンパク質工学からのアプローチ
松浦 健二(岡山大学)	昆虫におけるリゾチームの多面的機能
田辺 創一(広島大学)	乳酸菌による腸管保護: 学生が切り拓いた研究テーマで、世界を相手に勝負する
後藤 デレック(北海道大学)	Studying living roots at the cellular level

## 第2回(2009年5月7日~8日) @岡山大学津島キャンパス

アコスタ アラヤ トーマス(岡山大学)	ウシ卵巣における血管系の役割 - 卵胞、黄体における血流およびホルモン分泌の変化 -
小川 健一(岡山県生物科学総合研究所)	食糧・バイオマス増産及び品質向上を可能にするグルタチオンの生理機能とその応用展開
中北 慎一(香川大学)	生体資材からの糖鎖の大量調製法
坂本 君年(東京大学)	抗寄生虫薬の標的となる嫌氣的呼吸鎖電子伝達系
臼木 博一(岡山県生物科学総合研究所)	「ものづくり」のための物作り: 酵素の本質的な機能を「変える」
加来田 博貴(岡山大学)	企業に見捨てられた創薬ターゲットを甦らせる - シクロオキシゲナーゼ1阻害剤と核内受容体リガンドの創出 -
中村 宜督(岡山大学)	求電子性食品成分のケミカルバイオロジー イソチオシアネートとの出会いから10年間で学んだこと
金 哲史(高知大学)	アオスジアゲハの誘引・摂食・産卵刺激物質の解明を例に

## 第3回(2010年5月7日~8日) @岡山大学津島キャンパス

日辛 隆雄(福井県立大学)	蛋白質ループの構造と機能
刑部 祐里子(東京大学)	植物の受容体型キナーゼによる環境ストレス応答と生長制御
赤松 美紀(京都大学)	ADME(吸収・分布・代謝・排泄)と分子モデリング
朽津 和幸(東京理科大学)	植物の活性酸素-Ca <sup>2+</sup> 情報伝達ネットワークと自然免疫の制御
泉 実(岡山大学)	カルシウム情報伝達系解明のための分子プローブの合成
高橋 美智子(宇都宮大学)	ニコチアナミンの金属制御機構
仲宗根 薫(近畿大学)	アーキアゲノム情報を基盤とした生命科学
佐々木 孝行(岡山大学植物研)	アルミニウム活性化型リンゴ酸輸送体 ALMT1 の機能多様性

## 第4回(2011年5月20日~21日) @岡山大学津島キャンパス

中川 好秋(京都大学)	節足動物の脱皮メカニズムとその阻害物質の殺虫剤への応用 - 構造活性相関と分子設計 -
石川 孝博(島根大学)	光合成生物におけるビタミンC研究の新展開
西村 宜之(農生資研)	アブジン酸受容体 PYR/PYL/RCAR ファミリーを介したアブジン酸情報伝達機構
浅見 忠男(東京大学)	生物活性物質を創り活かす
前田 恵(岡山大学)	アスベスト曝露による中皮腫発症を免疫学的観点から考える
石原 亨(鳥取大学)	植物の生体防御におけるトリプトファン代謝の役割
岩本 博行(福山大学)	枝にまつわるサイドストーリー - 微生物および植物由来デンブン枝切り酵素の構造・機能とそれにまつわる物語 -
矢中 規之(広島大学)	ゲノム情報をもとに新しい酵素を発掘する - 疾病との関係を探る -

#### 第5回 (2013年5月10日~11日) @岡山大学津島キャンパス

中井 康司(塩野義製薬)	アカデミック研究と企業研究
戸澤 謙(愛媛大学)	膜輸送体タンパク質を試験管内で作り機能を再構成してみた
白井 理(京都大学)	膜を介した電荷移動と機能発現
竹川 薫(九州大学)	真核微生物におけるガラクトース含有糖鎖の生理的役割について
荒川 健佑(岡山大学)	ヒト小腸優勢乳酸桿菌 <i>Lactobacillus gasseri</i> の食品利用
明石 欣也(鳥取大学)	野生種スイカとバイオ燃料植物ジャトロファ : 乾燥地植物の環境耐性メカニズムの理解と応用
田井 章博(県立広島大学)	アスコルビン酸誘導体の研究から生まれた抗酸化評価システム
林 謙一郎(岡山理科大学)	植物ホルモン・オーキシンのケミカルバイオロジー

#### 第6回 (2014年5月16日~17日) @岡山大学津島キャンパス

今中 洋行(岡山大学)	バイオ分子と固体材料をつなぐ~バイオセンシングのデザイン~
鈴木 卓弥(広島大学)	消化管上皮バリア機能を調節する食品成分
間世田 英明(徳島大学)	抗生物質耐性菌の適応と進化の一様式? : ゲノムに隠された遺伝子発現調節機構
松田 一彦(近畿大学)	温故知新: ピレスリンから学ぶ昆虫制御の原理
清田 洋正(岡山大学)	生物活性物質の合成化学的研究~農芸化学における合成化学の役割~
真野 純一(山口大学)	植物の環境応答シグナルの新たな因子『活性カルボニル種』: その生成と作用
芦内 誠(高知大学)	ポリ- $\gamma$ -グルタミン酸のバイオ合成と先端機能プラスチック化
木村 泰久(京都大学)	ヒト培養細胞によるヒトABCタンパク質の大量生産、精製手法開発

#### 第7回 (2015年5月15日~16日) @岡山大学津島キャンパス

岩崎 崇(鳥取大学)	新しい細胞膜透過ペプチド: ポリヒスチジン
一柳 剛(鳥取大学)	LPS/LOSの酸性コア糖鎖の化学合成研究
櫻谷 英治(徳島大学)	微生物機能を活用した油脂発酵生産
吉田 久美(名古屋大学)	青色花色発現の解明—化学と生物の間で—
若井 拓哉(岡山大学)	哺乳類卵子の細胞小器官に関する研究
岡本 昌憲(鳥取大学)	植物ホルモンのアブシジン酸受容体に作用する化合物開発
伊東 秀之(岡山県立大学)	ザクロに含まれるエラジタンニンの化学構造とその機能性
三本木 至宏(広島大学)	極限環境に適応した生物がデザインする蛋白質

#### 第8回 (2016年5月20日~21日) @岡山大学津島キャンパス

肥塚 崇男(山口大学)	植物香気成分の多様性と生合成酵素の機能進化
福田 直弘(武田薬品工業)	医薬品の開発とプロセス化学
三芳 秀人(京都大学)	ミトコンドリア呼吸鎖複合体-Iの作動機構—阻害剤研究から眺めると—
人見 清隆(名古屋大学)	タンパク質架橋化酵素の高反応性基質配列を用いた病態解析
谷 明生(岡山大学植物研)	植物共生 <i>Methylobacterium</i> 属細菌の生態
向井 理恵(徳島大学)	フラボノイドのプレニル化による生体利用性の変化と機能性の増強
村松 久司(高知大学)	<i>Burkholderia</i> 属細菌のエルゴチオネイン代謝関連酵素を用いたエルゴチオネインの定量
荒川 賢治(広島大学)	放線菌の抗生物質生産をナノモルオーダーで誘導するシグナル分子の単離・構造決定・生合成

#### 第9回 (2017年5月19日~20日) @岡山大学津島キャンパス

尾添 嘉久(島根大学)	殺虫剤のターゲットとしてのリガンド作動性クロロイオンチャネル
清水 克彦(鳥取大学)	海綿動物に学ぶガラス細工
末吉 紀行(香川大学)	ゼブラフィッシュで探るプロテインキナーゼとプロテインホスファターゼの新機能
篠原 秀文(名古屋大学)	植物ペプチドホルモンの受容体を見つけ出す
守屋 央朗(岡山大学)	私たちは細胞についてどこまで知っているのか?
河合 慶親(徳島大学)	食品フラボノイドの代謝変換と機能性発現メカニズム
柳田 亮(香川大学)	環状化合物の配座と活性—単糖から天然発がんプロモーターまで—
宮下 正弘(京都大学)	合成ペプチドをツールとして植物の防御戦略を探る